

過去問プラス PLUS 資料解釈 No.4

東京都 I 類 B2015 増加率のグラフ

難易度 ★★

重要度 ★★★★★

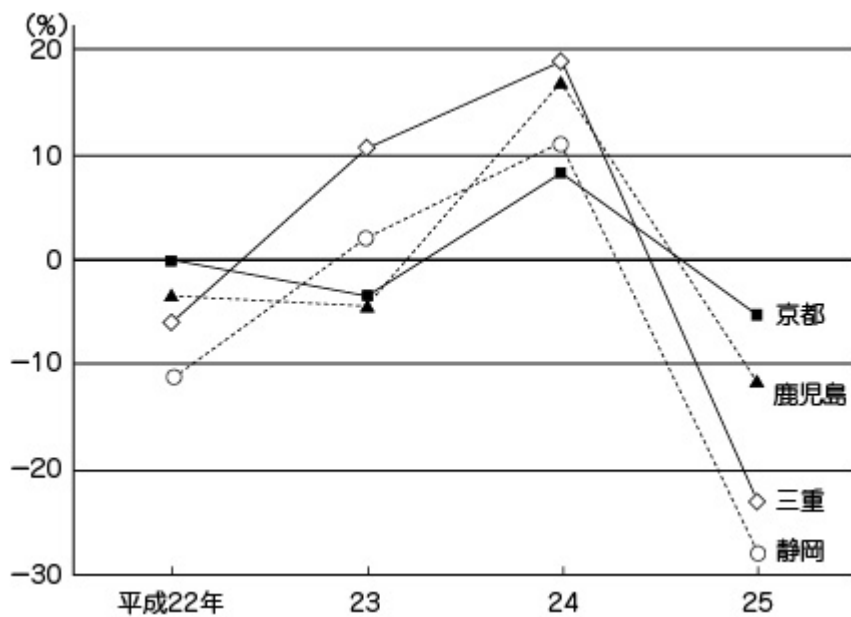


参考項目 資料解釈ザ・ベスト プラス #4 TRY! アウト 3-2

問題

次の図から正しくいえるのはどれか。

4 府県における一番茶の荒茶生産量の対前年増加率の推移



1. 平成 21 年の京都の一番茶の荒茶生産量を 100 としたとき、23 年の京都の一番茶の荒茶生産量の指数は 90 を下回っている。
2. 平成 21 年から 24 年までのうち、鹿児島が一番茶の荒茶生産量が最も多いのは 24 年であり、最も少ないのは 22 年である。
3. 平成 22 年から 24 年までの三重の一番茶の荒茶生産量についてみると、3 か年の 1 年当たりの平均の一番茶の荒茶生産量は、25 年の一番茶の荒茶生産量を上回っている。
4. 平成 22 年から 25 年までの各年についてみると、静岡の一番茶の荒茶生産量が前年に比べて増加した年は、いずれの年も鹿児島が一番茶の荒茶生産量は前年に比べて増加している。
5. 平成 23 年の一番茶の荒茶生産量を府県別にみると、一番茶の荒茶生産量が 22 年に比べて減少したのは京都だけである。

過去問プラス 資料解釈 No.4

解説

- 肢1** 京都の22年の増加率は0%ですから、22年の指数は21年と同じ100、23年の増加率はおよそ-3%ですから、23年の指数はおよそ97で、90を下回ってはいません。
- 肢2** 鹿児島県の23年の増加率はマイナスですから、22年>23年となり、最も少ないのは22年ではありません。
- 肢3** 三重の22年を100とすると、23年の増加率はおよそ11%なので、23年はおよそ111、24年の増加率はおよそ19%なので、24年は130をやや超えます。
よって、この3か年の平均は110を超えます。
しかし、25年はおよそ23%減少しており、130強の23%減では110に足りません。
よって、22年~24年の平均は25年を上回り、本肢は確実にいえます。
計算すると、次のように確認できます。

22年→100	}	平均 (100+111+132) ÷ 3 = 114
23年→111		
24年→111 × 1.19 ≒ 132		
25年→132 × (1 - 0.23) ≒ 102		

- 肢4** 23年は、静岡県は増加していますが、鹿児島県は減少しています。
- 肢5** 京都だけでなく鹿児島県も減少しています。

正解 3